

# 児ちごのそら寝ね



レベル 初中級  
しよちゅうきゅう

『宇治拾遺物語』より  
うじしゆいものがたり

【簡約】佐竹那月、吉田理乃、  
かんやく さたけなつき よしだりの

伊東優希、安倍菜々香  
いとうゆうき あんべななか

【挿絵】伊東優希、安倍菜々香  
さしえ いとうゆうき あんべななか

昔、比叡山という山に大きなお寺がありました。

お寺にはお坊さんたちがたくさんいて、たくさん勉強していました。そこに子どもたちもいました。子どもたちはお寺で働いていたのです。



ある晩、お坊さんたちが「ぼたもちを作ろうか。」と言いました。

それを聞いていた一人の子どもは、

「ああ、ぼくも食べたいな。」と思いました。

でも、もう寝る時間を過ぎていきます。

ぼたもちができるまで寝ないで待っているのは、

何となくかっこわるいと思ったので、とりあえず

寝たふりをすることにしました。

さて、ぼたもちができたようです。たくさん

お坊さんたちの声が聞こえます。



寝ないで待っていた子は、その声をきいて、

「きつと起こしてくるよね…。」と

いると、思った通りお坊さんが「起きなさい。」

と言いました。子どもは「やったー。」と

思いました。

でも、「ここですぐに起きたら、やっぱり

ばたもちを待っていたんだと思われるかも

しれない。」と

もう一度呼ばれたら返事をしよう

はいけない。もう寝てしまったのだから。」



子どもは「ええー！そんな……。もう一度起こしてほしいなあ。」と思いましたが、

お坊さんたちは、ぼたもちを食べ始めました。

むしやむしや……。むしやむしや……

むしやむしや……。むしやむしや……

「はいー！」

しばらくしてから、子どもはやっと返事をしました。

お坊さんたちは、みんなですわいました。

お坊さんたちは、子どもの寝たふりを最初からわかっていたんですね。

やさしい日本語で読む日本文学  
『児のそら寝』『清少納言と枕草子』

2023年3月1日発行

発行 宮城学院女子大学 学芸学部 日本文学科

印刷 株式会社 フロット

許可なしに転載・複製することを禁じます。